

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	「ゼロ」子ども広場まつなが		公表日		2025年 2月 27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	1	・利用する児童に合わせて遊びのスペースを計画的に打ち合わせして準備している。 ・パーテーションをして空間を分けることや更衣室を使って静かに過ごしたい児童の空間を作るように工夫をしている。	・屋上園庭の活用について 環境の整備改善が必要である。 ・静かに過ごしたい児童にとっては、現在の個室では物足りなさを感じている。学校の保健室のような体調不良の児童がいた時の過ごす場所がないため、感染症が広がる怖さを感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	3	・職員の人数については、基準職員と加配職員の配置を考慮しながら、児童が安全に楽しく過ごすことができるよう意識している。 ・職員間で職員の立ち位置や場所を確認し合い、児童が安全且つどの児童も楽しめるように工夫している。	・工夫点にあげたことをしているが、マンツーマンの偏りの対応をしている場面もあるため、職員間の声かけや状況把握を常に意識するよう努める必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	0	・段差を少なくしている構造化になっていると思う。 ・屋上園庭の人工芝が風でめくれている時は、児童が来る前に戻したり、児童が遊ぶ前に環境を整えている。	・園庭の人工芝が古くなり薄くなっていたり、活動中に風でめくられて転倒する恐れがあるため、新しい人工芝を購入することを検討している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	0	・食事場面と活動場面の空間を混ざないようにしたりテーブル席の配置をして清潔を保つようにしている。 ・毎日の清掃時やごみが落ちている時は拾うように心がけている。 ・活動や児童の配置によって、部屋をパーテーションでの区切って使用している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	1	・また、パーテーションをして空間を分けることもある。 ・個室が1か所しかないため、静養スペースとクールダウンスペースが兼用となっている。そのため、階段踊り場やワンタッチテントなどで空間を分ける工夫をしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	12	1	・常勤、非常勤職員も全員、管理職との面談の設定がある。また、会議議題に、課題と経過確認が記録され職員全体で、把握できるようにしている。 ・会議や引継ぎの際に職員間で話し合いを行っている。	・会議は常勤職員のみで行うことがほとんどであるため、会議資料で非常勤職員へ周知をしている。しかし、内容によって文章だけでは伝わらないこともあるため、口頭での説明も必要である。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	0	・保護者向けの評価を集計し会議で話し合いを行ない改善をしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	0	・会議や上司へ個別で相談することがある。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	1		・第三者委員会の意見があるかないかが分からない。あるかないか教えてほしい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	13	0	・法人内部の研修や参加したい研修があれば上司に相談し受講できる環境を作っている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13	0	・職員会議で、児童の支援経過を細かく把握できるよう記述しやすい工夫がされている。また日誌記述において全職員が発達支援の視点がもてるよう努めている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12	1	・日誌などで支援計画につながる記録を記入しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13	0		・職員間でより活発な意見交換ができるようになればいいなと感じる。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12	1		・支援計画書に目を通す機会を増やし、より計画通りに支援することを心掛けたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	0	・計画書から全体で協議して進められるよう打ち合わせなどの期間が段階的に組まれている。 ・設定する活動の時は、常勤職員で活動内容や流れを話し合っている。	・活動の準備を担当者が抱えてしまうと負担が大きいため、計画後の活動準備については、全職員で分担してできるようにする。

適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動の提案など、各職員が行なっている。また、児童からの提案された活動についても実践できるか話し合っており、実現できるものについては、実際に計画して実施している。 ・季節や、その時の流行の遊び、児童のリクエストを吸い上げる工夫をしている。 ・多種多様な遊びを準備しておき、写真等で提示し、児童の要望をきいてから療育がスタートするスタイルを職員同士で積み重ねている。 ・子ども達に合った、また、子どもの興味など踏まえながら、新しい活動を提案している。 	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて個別、集団の活動を行なっている。場所を分けたり、遊びや活動を分けることがある。 ・全員で一斉に同じ活動をするのは年に数回の行事等で行なっている。 	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後利用の際は、迎えより前の時間に引き継ぎをしている。休業日利用の際には、出勤時間が違ったり、受け入れ開始が早いこともあり、引き継ぎという時間は設けていないが、職員同士で声をかけ合っており共有を行なっている。 ・時系列や前回の利用時の姿などもスケジュールとし記述されていて、全通の動きと個別の配慮事項が申し送りされる工夫した日もありますが、多忙な状況や連携事項が増えるなかでも児童を真ん中に実践を共有している。 ・気付きは細かくメモなども活用して、打ち合わせにて共有している。また引き継ぎ表、日誌とも様子を細かく記入し、児童の気持ち表情なども記録するよう努力している。 	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・業務日誌に意見交換しやすいよう記入したり記述した用紙をもとに気付きの把握をしている。 ・集まって話し合いをする機会はないが、気になることや活動の様子を職員間で話をするところがある。 	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインについて各自が認識を高めて業務にあたるため提起的に会議の中で基本的な方針の振り返りをしている。 ・空間を分けて児童がのびのびと活動できるようにしている。 	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・チームワークを心がけて、児童に豊かな選択肢が提示できたり、余裕をもって対応できるように複数の職員が関わるよう努めている。 ・活動内容を悩んでいる児童に複数の選択肢を提示するように心がけている。 	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて参加している。 	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な時には行なっている。 ・就学前の療育機関の情報を頂いたり、必要に応じて会議の場を持つなどして連携を取っているが、全員はできていない。 	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の受け入れ対象児童を小学生に限定しているため、障がい福祉サービス事業所への移行の際に情報提供などは行なっていない。必要に応じて、小学校卒業時には次の放課後等デイサービス事業所への引継ぎは行なっている。 	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援センターとは、その施設の卒業生について情報を共有したり、助言を受けることがある。また、利用児童の関係者会議に参加してもらい意見を頂くこともある。 ・発達障害者支援センターとの関わりについては、センター主催の研修に参加することもある。 	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・公園に行った際に地域の子どもと一緒に遊ぶことがある。 ・事前に計画して交流する機会はない。 	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	4	<ul style="list-style-type: none"> ・直接参加はしていないが、その協議会へ参加した職員から情報を頂いている。または、所属する団体から間接的に情報を得ている。 	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時や連絡帳で伝えている。 ・連絡帳や送迎時に情報共有を行なっている。 ・年に1～2回、また随時、保護者と面談を行なっている。 	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレント・トレーニングを実施することはないが、相談、助言等は行なっている。 ・保護者に対して電話や面談などで助言やアドバイス、関係者会議での話し合い等の保護者支援を行なうことがある。 	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・運営規定や利用者負担等については、契約時に説明を行なっている。 ・支援内容については、個別懇談時に細かく説明している。 		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13	0	・子ども本人からは普段の話の中から意向を聞いており、保護者からは、面談時や書面で意向を聞いている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	13	0	・茶話会（保護者同士の交流の場）を年に2回開催した。今年度は平日だけでなく土曜日にも1回実施した。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	0	・苦情、意見を頂いた際には、苦情受付記録に残し、苦情受付責任者（管理者）に報告している。また、職員間でその苦情について対応を協議して対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	13	0	・毎月、通信を発行して家庭へ配布している。 ・また、直接送り迎えをされる保護者や児童向けに、活動写真を掲示（毎月更新）して見てもらっている。 ・チラシを作成し課題活動の内容を予告している。	・通信がカバンなどに入っただけになっていることがあるため、保護者や子どもたちにもっと見てもらえるような工夫が必要である。 ・通信をデータにして配布するなどの方法も個人情報に配慮したうえで検討したい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13	0	・職員室などで児童について話す時に、窓から屋外に聞こえることがないように配慮している。 ・来客者が児童の私物（上履きなど）を目にするようなないように配慮している。 ・他の児童の個人情報が別の児童に知られることがないように配慮している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13	0	・相手に分かりやすい説明を心掛けている。 ・専門用語をできるだけ使用しないようにしている。 ・言葉での説明の理解が難しい場合、写真やイラストなどを使用した文書を用いて説明を行なうこともある。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	6	・事業所周辺の清掃活動を毎月1回行っている。 ・利用児童の受け入れが無い時間帯に、松永東保育所が行なう地域の子育て支援事業で当事業所を使用することがある。	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	0	・さまざまな場面（火災、地震、地震からの火災、不審者、津波）を想定して毎月1回訓練を行なっている。 ・具体的にテーマを決めて実施し、職員間で振り返っている。 ・訓練がマンネリ化する事なく計画、実施、振り返りを職員全員で行なっている。
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	0		
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	13	0		・現在の利用児童の中には、ここ数年でてんかん発作が起こったことがないため、実際の対応等を職員全体で再度確認する必要がある。
49		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12	1	・現時点では、対象の児童はいない。 ・必要な児童については、保護者からアレルギーの情報（アレルギー結果結果）を提出してもらい、職員間で把握して対応している。 ・食品を保管している倉庫に掲示しており、おやつ等を提供する際には毎回確認している。	
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13	0		
51		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12	1		
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13	0	・ヒヤリハットについて記述する意識が低くならないよう意識向上の大切さを毎月確認している。（会議内でヒヤリの内容を確認している）	
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	0		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13	0			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		「ゼノ」こども広場まつなが				公表日	2025年2月27日		
						利用児童数	44名 (36家庭)	回収数	24件
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	4	0	1	・天気が悪い日は室内だけのスペースだと少し狭いのかな…と感じます。 ・狭く感じる時がある。	確かに雨天時などで『屋上園庭』が使用できない場合には室内だけでは狭いです。その際には安全を確保しながら屋内の他のスペース(廊下、踊り場)を使用しています。	
			79%	17%	0%	4%			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	3	0	2	・退職されるスタッフの方が多いのかな、と少し気になっています。	できるだけ長く元気に勤めてもらえるよう、半年に1回の職員面談などで職員からの意見を聞きながら、事業所運営に生かしていきます。	
			79%	13%	0%	8%			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	1	0	1				
		92%	4%	0%	4%				
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	0	0	2	・事業所に入る事がないので分かりません。時には様子が観れると嬉しいですね。	年に2回の茶話会(保護者同士の交流の場)や、家族支援の相談で来られた際などに見てもらえたらと思います。		
		92%	0%	0%	8%				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23	0	0	1			
			96%	0%	0%	4%			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23	1	0	0			
			96%	4%	0%	0%			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	23	0	0	1			
			96%	0%	0%	4%			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	0	0	3			
88%			0%	0%	13%				
9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24	0	0	0				
		100%	0%	0%	0%				
10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	3	0	2				
		79%	13%	0%	8%				
11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	6	3	9	・こども広場以外の子どもと会わないから分らない。	・こども広場以外の子どもたちとの関わりについては、公共の公園などで一緒に遊ぶこともあります。		
		25%	25%	13%	38%				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24	0	0	0			
			100%	0%	0%	0%			
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24	0	0	0			
			100%	0%	0%	0%			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	2	0	5		・年に2回の茶話会の中で、療育についてのちょっとした研修や情報提供を行っています。	
			71%	8%	0%	21%			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	23	1	0	0			
			96%	4%	0%	0%			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24	0	0	0			
			100%	0%	0%	0%			
17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	1	0	1				
		92%	4%	0%	4%				
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	2	2	4		・きょうだいへの支援は、保護者から相談援助を受けることがあります。 ・茶話会(保護者同士の交流の場)は今後も年に2回開催予定です。		
		67%	8%	8%	17%				

19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	1	0	3		・ご意見や苦情受付の体制があることは、契約時に説明するのみですので、通信などでそのような体制があることを再度お知らせしようと思います。
		83%	4%	0%	13%		
20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	0	0	1		
		96%	0%	0%	4%		
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	1	0	2		
		88%	4%	0%	8%		
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22	0	0	2		
		92%	0%	0%	8%		
23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	1	0	3		
		83%	4%	0%	13%		
24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	0	0	4		
		83%	0%	0%	17%		
25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22	0	0	2		
		92%	0%	0%	8%		
26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	0	0	5		
		79%	0%	0%	21%		
27	子どもは安心感をもって通所していますか。	24	0	0	0		
		100%	0%	0%	0%		
28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	23	0	0	1	・いつもとても楽しみにしている。 ・もっと行きたい。	
		96%	0%	0%	4%		
29	事業所の支援に満足していますか。	24	0	0	0		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	「ゼノ」こども広場まつなが		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 3日		～ 2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年 2月 17日		～ 2025年 2月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>【事業所、職員の専門性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害のある児童への対応ができる。 障害の程度が重度である児童（支援が多く必要な児童）への対応ができる。 行動面に課題のある児童への対応ができる。 利用児童の発達段階やその児童の力を確認するために発達検査を実施して療育や支援に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤、非常勤問わず、強度行動障害支援者養成研修を受講している（修了者5名）。 特に障害特性から強い不安を感じる児童に対しては、まずは安心を担保できるよう、支援の基本原則『SPELL』を参考に支援を考えている。 職員が設定した活動は最低限の回数行ない、基本的には児童が自分で考えて遊びを作る『自由遊び』を行なっている。 表出される諸々の行動、言動にのみ注目するのではなく、その児童を理解（特性、発達段階、背景など）したうえで、その子の『本当の願いや思い』に注目して支援を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害支援者養成研修、発達検査の研修を受講して学ぶ。 事業所内で各児童のその時の姿を通して支援を検討する機会を多く持つ。
2	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 216㎡の広さの屋上園庭がある。 そこは天井がなく、陽の光を浴びたり風を感じたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋上園庭は上に全面ネットを貼っているため、野球やサッカーなどの球技全般を思い切りできる。 屋上園庭には人工芝を全面敷いており、球技だけでなく鬼ごっこなどで走ったり、ゆっくりとゴロゴロするような遊び方もできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人工芝が経年劣化してきているため、全面張替えを検討している。
3	<p>【保護者の就労支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 休業日の受け入れ時間が長い。（8：30～17：30） 	<ul style="list-style-type: none"> 基本の受け入れ時間は、8：45～16：45としているが、保護者の就労の都合であれば、最大で8：30～17：30までの受け入れを行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間の受け入れとなるため、家庭の事情（保護者の二重）だけでなく、子どもの意向も考慮した上で保護者と児童、事業所と三者で相談して決めるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋内が狭く、体調不良などで静養できる専用の個室がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 更衣室が唯一個室になっており、静養やクールダウンのためのスペースとして代用している。 その個室は発達支援室のすぐ近くにあり、十分に隔離することが難しく、感染症対策に不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 屋内のスペースで、静養が必要な児童とそうでない児童とを分け、可能な限り隔離できる状態にする。 同じ建物である保育所の設備の活用も検討する。
2	<p>【開かれた事業所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業所内の各種マニュアルや活動内容などが保護者などに十分周知されていない。 事業所の中を見てもらう機会が少なく、開かれたとはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の各種マニュアルや活動内容などは、保護者に事業所に来てもらう機会があれば見てもらったり説明することはできるが、そうでない場合は周知できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内の設備や活動内容、運営方針などを、保護者を含めた外部に広く発信する方法を検討したい。
3			